

「日の丸・君が代」法制化抗議声明

日本バプテスト連盟理事会は先に、1999年3月17日付で「日の丸・君が代の法制化に反対する声明」を発表し、反対署名運動や反対抗議集会などを行ってきましたが、政府といわゆる「自・自・公」与党は「日の丸・君が代を国旗・国歌とする法案」を強行に成立させました。私たちはこのような暴挙に対し断固抗議を致します。

「日の丸・君が代」法制化については世論が大きく分かれているにも拘わらず、議論も十分に尽くさぬままの採決でした。政府は、法制化は「強制」を意味しないと答弁つつつも、文部省担当者が「教職員が国旗・国歌の指導に矛盾を感じ、思想・良心の自由を理由に指導を拒否することまでは保障されていない」と明言しているのは、まさに公立学校における戦争責任を踏まえた歴史教育への介入・弾圧こそが「法制化」の目的であることを示しています。従来でも日の丸・君が代の強要は公立高校の校長を死に追いやるほどのものでしたが、~~法制~~化はまさに強制の強化・正当化に他なりません。

私たちキリスト者はそもそも国旗・国歌を「多数決原理」によって決めることそのものにも疑義を持つものです。国を愛することは深く「こころ」の問題であり、思想・信教の自由は多数決原理になじまないからです。特に、天皇制と結びつく日の丸・君が代の国旗・国歌法制化は天皇制によって歴史的に差別されてきた少数者を更に窒息させ、アジアの諸国民に対する排他的国家観による挑戦を意味しています。

私たちキリスト者は旧・新約聖書を通して教えられるようにあらゆる「偶像礼拝」に反対します。それは単にキリスト者の宗教的信条であるだけでなく、「偶像礼拝」は、必ず、人間や「国家」などの人間の文化の自己崩壊を招来するからです。日の丸を国旗とすることはキリスト者に天皇制国家への偶像礼拝を強要し、君が代を国歌とすることはキリスト者に天皇制讚美歌を押し付けることを意味するゆえに、私たちは決して日の丸を掲げない、決して君が代を歌わない決意をここに表明すると共に、良心に反して日の丸を掲げない、君が代を歌わないよう連帯を呼びかけます。

また、

- 1、日の丸・君が代の強制に反対する、キリスト者はじめ少数者の人権を擁護する公立学校の教師たちを支援すること
- 2、ミッションスクールなどの私学における日の丸・君が代強制に反対すること
- 3、教会において神の義にうながされた戦争責任を踏まえた歴史教育を行うことをここに表明して抗議と致します。

「たといそうでなくても、王よ、ご承知ください。わたしたちはあなたの神々に仕えず、またあなたの立てた金の像を拝みません」(ダニエル3：18)

1999年8月9日

日本バプテスト連盟理事会

内閣総理大臣 小淵恵三殿